

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2070200411		
法人名	医療法人 心泉会		
事業所名	グループホームローズガーデン		
所在地	松本市大字中山7494-8		
自己評価作成日	平成30年2月6日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2070200411-00&PrefCd=20&VersionCd=022
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	長野県松本市蟻ヶ崎台24-3
訪問調査日	平成30年3月5日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

- ・介護老人保健施設の併設型のグループホームとしてのメリットを最大限に活かすこと
- ・併設の介護老人保健施設の医療面のバックアップ体制による安心機能。
- ・併設施設の設備の利用や職員の協力により、バリエーションを広げた生活環境の構築。
- ・恵まれた自然環境の下で、四季の移り変りを感じながら、仲間と生活する喜びを感じていただくこと。
- ・地域の皆さんとの交流や訪問していただく方々との親睦を深めること。
- ・グループホームの理念を実践していくこと。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

事業所と併設施設との連携は確固たるもので、そのメリットは計り知れないものがある。職員合同の各種研修や各委員会を通じての職員の専門性や質の向上。健康管理や医療面でのサポートは利用者や家族の安心となっていることが確認できる。合同での行事やボランティアの催し、ローズカフェや出張コーヒー店等への利用者の参加は地域の方々との交流や生活の潤いとなっている。入所にあたっての家族の思いは多様・複雑で、その心情を察し、家族の立場、利用者の立場に立った取り組みを重視している。各種の催し物の開催においては、来られない家族や利用者の心情を考え、気楽な声かけは控えている。代わりに、本人の誕生会を家族の都合の良い日に行ったり、面会の際には食事を一緒に食べてもらう等、きめ細かな支援と配慮が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	暖かく思いやりを意識し、家庭的な雰囲気になるようゆったり接し、笑顔で接することを心掛けています。 家族と過ごす時間を作れるように誕生会へのお誘いをする事によって、来れない方も来ていただけました。	理念の理解が浸透しており、日々の実践に活かしている。また、ホームでできる事、できない事、理解も進んでおり、各利用者の誕生会を家族と共に祝うため、来所可能な日取りとするなど、家族との絆の継続に視点を置いた取り組みも行っている。	「暖かく思いやりのある、家庭的な雰囲気作りを努めます」「毎日笑顔で過ごします」「体調管理及び怪我のないよう努めます」との、三つの理念を常に意識した、具体的な実践が今後も続くことが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中山地区の敬老会に参加させていただいています。また、内田福祉広場に行き、喫茶に参加し地域とのつながりがもてるようにしています。地域ケア会議への参加等、積極的に参加できるようにしています。	法人と地域との関係は良好で、老健施設と共同で協力・参加が日常的に行われている。また、地域住民向けに併設施設で解放されている定期的なローズカフェにはホーム利用者も参加するなど、住民との触れ合いの場も確保している。	良好な施設全体と地域との関係の中で、「認知症になっても安心して暮らしていける地域」に視点を置いた、ホームの存在意義を高める新たな取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人でローズカフェを開催。 認知症予防・体操を行い、喜ばれている姿もみられ、地域貢献への取り組みとして行う機会が持っています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、認知症やグループホームの説明・日々の利用者様の様子を話し、理解も増してきて、協力関係が少しずつ築けてきています。今後も普段行っていることをことごとく取り上げ、委員の方々から意見をいただきたいと思えます。	定期的な運営推進会議ではホームの事業計画・報告の他、外部評価結果やホーム内部での課題なども行政・地域の各関係者を交えて話し合われている。 また、地域の防犯や防災についての議題も上がっており、地域との協働の土台はできている。	認知症の方にに向けたホーム及び職員の持つ能力(できる事・できない事)の説明や各取組での課題、利用者・家族の思いなどを周知する事で、参加メンバーが認知症介護における課題や新たなニーズの理解が更に深まると思われる。 また、取り組みについては既存・新規を問わず、目的や目指す成果をわかりやすく説明することで、新たな意見・提案・協力が得られる可能性も生まれると思われる。 さらに、日々の利用者の活動支援の取り組みなどは、ストーリー性を持たせたものにするなど、意欲を引き出す視点も必要であろう。 基本的に、運営推進会議メンバーやその議題等については制限が無いこともあり、在宅で認知症の家族を看ている方の参加や、地域の高齢者の交通安全対策や交流、地域の賑わいなどの議題も更に期待したいところである。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは、運営推進会議にて意見交換をし、連携を保てるようにしています。	運営推進会議にて行政担当者との意見交換が行われ、ホームの運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会は行い、会議等でも職員が意識できるよう勉強しています。	身体拘束排除を玄関に掲示しており、玄関の施錠は当然ないが、ここ数年は離設する利用者がいない状況である。 なお、離設の際には職員の声掛けで行き先を聞いて一緒に散歩したり、時には家族へ連絡して自宅へ訪問したりと、単に連れ戻すことも拘束と意識するなど、身体拘束排除の意識は高く保持している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人や施設内で研修会や勉強会を行っています。職員間でも日々のカンファレンスを通じ防止に努めています。言葉による虐待については注意を払って防止につなげています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度への研修会に参加し、職員の学ぶ機会がもてるよう、また、研修報告をし、理解が持てるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、事務部門で行うようになっています。内容の疑問等については、その都度スタッフが説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は現状を伝えるとともに、要望等聞けるように努めています。	定期的な面会者も多く、居室や面談室での時間を大切に、その後、利用者の現状などを伝えている。また、それらの内容は家族連絡ノートに記録して、ホーム内での共有化を図り、速やかな対応が行われている。 玄関入口には何冊ものホームのアルバムが設置されており、ホームと利用者の歴史や良好な関係を知ることは容易である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設施設との定例会議や、グループホームでのミーティングにおいて検討されている。	併設施設との定期的な会議やホーム内での職員ミーティングで、意見の集約が図られ共有化がなされている。 職員8名のローテーションによる小規模ホームではあるが、併設施設の影響であろう、各種取り組みは組織的である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人において人事評価制度を構築中であり、職員全員で協力しています。 また、ストレスチェックの導入等、職場環境の形成を目的にしたものになるのではと思っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の方針として、個人のスキルアップのための研修計画や、各種資格取得への応援態勢を整備しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野県と同業者のネットワークに加盟しており、積極的に参加しています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と十分に話しをする機会を作り、どのように生活を営みたいのかをお聞きして、希望に沿えるよう努めています。 言葉にできない方は察して接する等心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には、ご家族様とも十分な話し合いを行い、グループホームでの生活について、ご本人の希望や不安などを検討しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との話し合いの中で、細目に対応できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	談話の時間を設け、コミュニケーションを図りながら仲間としての関係を築いています。 手伝い等やりたい事が出来るように一緒に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションも大事にし、常に同じ立場でご本人のことを考えるような関係を築くことを心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	松本周辺のドライブや自宅周辺に行くことで安心され、思い出されてもいるようで、今後も継続していきたいです。 馴染みの方の面会も居室でゆっくり会うことが出来ています。また、行事参加、今までいた老健職員とのつながりを大切にしています。	立地条件を考慮しているであろう、外出支援に関しては意欲的であり、馴染みの美容院や懐かしい場所へのお出かけなどの個別対応が行われている。 また、カレンダーに家族が来所予定や記念日を記載している居室もある。 さらに、併設の老健施設における催しや毎週末所するボランティアの際に出かけることで、馴染みの利用者や職員との関わりの機会も提供している。	家族やボランティアの来訪予定、行事や外出予定などを各居室カレンダーに記載するなどして、利用者自身が明日を感じたり、期待したりできる環境づくりへの支援は更に期待したいところである。 家族が発するこの一人の時間への環境作りの視点は、利用者・家族・職員で創るグループホームの基本であり、可能な方への推進が期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重し、大切にすることで、利用者同士のトラブルに配慮しながら、協調していく関係作りを目指しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも、必要に応じ相談や助言を行っています。老健にいかれた際は声掛けを行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、どのような生活を望んでいるのか、どんなことをしたいのか、コミュニケーションの中から汲み取れるように努力しています。	利用者の表情やしぐさから判断したり、利用者から昔の話を語って頂いたり、カラオケで歌を歌って頂いたり、ご家族からの情報も参考にしながら、様々な角度から検討して本人・本位となるように努めている。 そのため、利用者はこざっぱりと身支度を整え、穏やかで安心した時間を過ごしている。 また、入所後の不穏も職員が受容的に係わり、本人の話を十分に聴くことで、この穏やかな環境に溶け込んで自分の家として認識しており、職員は初期の対応が大事との長年の経験から、共有の下に支援している。 まさに、実践経験の蓄積がここにはある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のご家族様との話し合いやご本人様との会話の中から、これまでの様々な情報についての把握に努めています。 また、面会時での話の時にも情報把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人が日々の様子を観察し、現状の把握、出来ることは何かを考えて行っています。 また、バイタルチェック・表情の確認をし、日々の申し送りで伝えています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係する部署や以前の様子を知っている方からの情報、また、御家族様からの意見を取り入れて、スタッフ全員で介護計画を作成しています。	介護計画は毎月の評価を元に定期的に見直しを行い、利用者の変化に合わせての評価も実施している。 また、日々の記録は各職員が介護計画を確認しやすいように、また、記録できるような工夫がされている。	一人ひとりのストーリー的な、長期的な視野を含んだ、目的を持った計画などに工夫すると、ホームの日々の暮らしの中で本人も意識しやすくより具体的な目標となって、本人の思いや意向も更に把握しやすくなると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録を行い、職員間で情報を共有し、介護計画の作成に反映できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応できるように工夫をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の福祉広場に参加したり、ボランティアの方々、幼稚園生との交流を積極的に行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院はもとより、眼科・皮膚科等他科受診は本人・ご家族様の希望があれば、かかりつけの医療機関への受診、家族への協力をお願いしています。	馴染みのかかりつけ医での受診支援とともに、協力医療機関との連携を密としている。 事業所と医師の往復様式の活用で、利用者の情報や医師からの指示の共有を図っている。 また、併設施設の看護師による毎日のバイタルチェックや、健康管理は利用者・家族の安心の基となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健看護師とは連携をとり、毎日様子を見に来ていただくなど、異常時や急変時の対応、また状況に応じた適切な指示・処置を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは連携をとっており、情報交換を行うことで、ドクターやナースとの協働もできています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては話し合いを行い、マニュアルが作成されているため、対応できるようにしています。	入所時に事業所の方針を説明するとともに、状態の変化に伴い随時、家族と話し合いが行われている。母体が医療機関であることや、併設施設での専門的な医療的対応が可能なことで、異動する利用者が多いが、希望によるターミナルケア実施の体制も整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には併設施設の看護師のサポートが速やかに行われるようになっています。また、老健と合同で、AEDの勉強会を行ってきました。事故が発生してしまった場合、カンファレンスでの話し合いに取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	老健と合同で行う防災訓練にて、意識を高め、必要な知識を身に付けるようにしています。内田地区とは、防災無線の対象施設に加えさせて頂いています。また、運営推進会議を通し、地域の方の協力体制を検討しています。	昼夜を想定しての避難訓練を併設施設と合同で実施し、問題点や課題について話し合っている。立地条件による豪雨・豪雪の際の体制も整備され、想定される土砂災害発生への対策も検討中である。また、運営推進会議では、災害に関する話し合いも進んでいる。	運営推進会議などで出された、事業所と地域の協力体制に向けての更なる取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切に、言葉掛けには配慮させて頂いています。面会時には、それぞれの居室でご家族の方とゆっくり話ができるように、また、一緒に食事ができるような雰囲気を中心掛けています。	人生の先輩として、利用者の人格の尊重・尊敬を大切にした対応を心掛けている。場面ごとのマニュアルには、プライバシー確保や羞恥心への配慮を求め、統一したケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声かけを行い、ご本人の意見や希望を職員がしっかりと把握できるように対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活のリズムは違うということを理解し、個別の声かけの中で本人の希望を把握する様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はご本人の希望を聞き、好きな洋服を選んで着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の料理やおやつ作りを考え、できることは一緒に手伝って頂きながら、行えるようにしています。月に一度の行事食参加は楽しみの場となっています。	食事は併設施設からの提供であるが、週一回の昼食やおやつ作りを実施し、利用者との共通の時間をもったり、自分達で野菜を育てるなどの工夫がみられる。 毎月の行事食や郷土食にフルカラーの「おしながきカード」を付け、写真や絵で内容や謂われを紹介し、食への関心や楽しみとなっている。 また、定期的な嗜好調査の実施で、食べたい食事の参考として活用し、満足度を高めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量については個人の状態に合わせて対応させて頂いています。 水分については摂取していただけるように訴え時の対応等、心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを行っています。自分でできる方は本人ですが、できない方についてはできるところまで磨いて頂き、最終確認を職員で行っています。 また、老健の歯科衛生士からのブラッシング指導も必要に応じ受けさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排尿量を把握し、個人に合わせたオムツの使用を検討しています。定時のトイレ誘導や、排尿時の訴え等を聞き、誘導しています。	一人ひとりに適した支援と配慮で、スムーズな排泄となるように心掛けている。 また、毎日の排泄チェック表の確認で、早目の対策を実施している。夜間も安易にオムツをするのではなく、ポータブルを使用するなど、可能な限りの自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活の中で、カスピ海ヨーグルトを提供したり、歩行・水分摂取を促し便秘の予防に努めています。 また、下剤も一人ひとり調整させて頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望により時間帯をあわせています。ゆったりとした入浴ができるよう1対1の入浴を心掛けています。	本人の希望に合わせてながら、家族的な浴槽でゆっくりと寛げる入浴となるように支援している。 そのために、利用者の身体状態に合わせた入浴用福祉用具を上手に取り入れている。 また、立位が困難な場合は併設施設の特浴を利用するなど、負担軽減・安全性に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいときには、いつでも休めるように個々のリズムを大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導の下、服薬管理を行っています。薬の内容や副作用等を理解し、個々の服薬支援ができるよう連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌・踊り・演奏等様々な老健行事に参加し、楽しみの一つになっています。 また、散歩に出て、気分転換が図れるように支援させて頂いています。嗜好品は飲みたい時にいつでも飲める環境を整えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホーム内で定期的な外出を計画しています。季節に合わせたドライブや外食、利用者の意向を聴きながら支援に結び付けています。自宅周辺に行ったり、家族の協力によって、外食、外泊が来ています。	個人的な外出は家族が行うことが多いが、気軽に併設施設での出張コーヒー店やローズカフェ、地域の催し等に参加し、地域の方々との交流の機会としている。 また、利用者の要望を取り入れたドライブや外食での楽しみ、特に、外食の寿司店、カフェ、食堂とは馴染みとなり、店側が配慮や気配りをしてくれる関係となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方には、本人に管理をお願いしています。持つことで安心している方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話のやり取りの支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、テレビの音量には配慮をしています。 また、昔の音楽を流し、一緒に口ずさみながら、ゆったりとした空間を作るように心掛けています。	広い共有空間は音や声の騒がしさがなく、ゆったりと時間が流れているような心地良さがある。 また、ひな飾りなど、その時々行事飾りで季節感と懐かしさを醸し出している。カーテンや畳の張替えなど環境の整備に力を入れていることも確認できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士が自由に過ごせるように、椅子や机を数か所に置いている。また、入居者の方が好きな場所を職員が把握して、誘導する様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用できる方は、部屋に置いてある方もいらっしやいます。家族の写真等を飾り本人の居場所となるようにしています。写真やなじみのあるもの等持ってきていただけるようお願いしています。	どの居室からも外の自然の移り変わりが眺められ、利用者の楽しみとなっている。 愛用品であるラジオや置き時計、ぬいぐるみを傍らに置いている利用者もいる。 また、カレンダーに家族が次回の面会日を記入していくなどの工夫もある。	今までの暮らしとのギャップを少なくすることが本人の不安の軽減、落ち着きの環境となることを家族と話し合い、使い慣れた物や愛着品の持ち込みを更に増やすなど、親しみのある、自分の家と感じられる、より居心地の良い環境への支援が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はスペースが広く、歩行訓練やリハビリテーションを行うことが容易です。車いすが自走できる方には自立できるようなスペースとなっています。見守りを徹底し、安全には最大限の配慮をして生活していただいています。		